



月報

5

缶詰問屋協会

(46.5.12 No.53 VOL.5)

◆目次◆

| | |
|---------------------|----|
| 4月の行事 | 1 |
| ◇新物アスパラ缶詰に関する懇談会 | 2 |
| ◇アスパラ缶詰懇談会に関する打合 | 5 |
| ◇新物筍缶詰に関する日缶協よりの文書 | 7 |
| ◇農産缶工組、桜桃かん詰について要望 | 10 |
| ◇みかん缶詰内販対策懇談会 | 11 |
| ◇理事会 | 18 |
| ◇果実飲料公正取引協議会が発足 | 20 |
| 共同宣伝 | 21 |
| 缶詰フェア | 24 |
| ベターリビングシヨーナゴヤ'71に参加 | 25 |
| ◇缶詰取引協議会常任理事会打合会 | 28 |
| 関係団体報知 | 29 |
| 会員消息 | 29 |

全国缶詰問屋協会

Japan Canned Food Wholesalers Association

東京都中央区日本橋通3丁目8番地

八重洲通ビル 7階

電話 東京 (278) 9278・9289番

4月の行事一覧表

| 行 事 | 月 日 | 時 間 | 場 所 | 出 席 |
|-----------------------|-------|--------------|------------|--------------------------|
| NHK出版部との打合せ | 4月 8日 | 15.00～16.00時 | 製缶協会 | 日缶協、製缶協 全缶協、3専務 理事 |
| 共同宣伝打合せ | 4月14日 | 13.00～15.00時 | 北洋商事(株) | 、 |
| 蜜柑缶工組とのみかん缶販売対策懇談会 | 4月15日 | 14.30～16.00時 | 八重州 竜名館 | 浅井会長、在京 果実部会員 |
| 〔果実飲料公正取引協議会設立 4月15日〕 | | | | |
| アスパラ缶詰懇談会に関する打合せ | 4月22日 | 14.30～15.30時 | 北洋商事(株) | 在京蔬菜部会員 7社 |
| アスパラ缶詰に関する懇談会 | 4月22日 | 16.00～17.30時 | 日 缶 協 | 農産缶工組14名 全缶協7名 |
| 45年度会計監査 | 4月23日 | 11.00～13.00時 | 事 務 局 | 中山副会長、萩 原監事 |
| 缶詰取引協議会常任理事会 | 4月23日 | 14.00～16.30時 | 日 缶 協 | |
| ベターリビングショーナゴヤ打合せ | 4月24日 | 10.00～14.00時 | 名 古 屋 | 川口伸三郎氏、 森下裕氏、専務 |
| 理 事 会 | 4月26日 | 13.30～15.30時 | 日本橋 精養軒 | |

5月の行事予定

| | | | | |
|--|-------|--------------|----------------|--------|
| もも缶詰に関するJAS懇談会 | 5月 7日 | 10.00～13.00時 | 日比谷 松本楼 | 検査協会主催 |
| JASアスパラガス缶詰の展示説明会 | 5月11日 | 13.00～16.00時 | 吉田工業(株) | |
| 東部地区缶詰フェア実行委員会 | 5月12日 | 13.30～15.30時 | 日 缶 協 | |
| 〔ベターリビングショーナゴヤ '71 愛知県産業貿易館 5月15日～5月30日〕 | | | | |
| 全国食品缶詰公正取引協議会理事会定時總會 | 5月19日 | 15.30時～ | 丸の内ホテル | |
| 全缶協定時總會 | 5月20日 | 14.00～16.00時 | 鉄道会館 ルビーホール | |

新物アスパラ缶詰に関する懇談会

日時 昭和46年4月22日 16.00～17.30時

場所 日本缶詰協会 会議室

内容 新物アスパラ缶詰について

出席 (農産缶工組)

日魯漁業(株) 谷氏、鞍橋氏

クレードル興農(株) 佐藤氏

岩手缶詰(株) 清水氏、西岡氏

仁丹食品(株) 安藤氏

北海道食糧缶詰(株) 田辺氏

トーヤ食品(株) 徳永氏

ホクレン農協連 中村氏、菅原氏

クレードル食品(株) 鶴見氏

清水食品(株) 浜辺氏

山内専務理事 清水氏

(全缶協)

(株)矢口屋商会 萩原氏

(株)逸見山陽堂 橋田氏

国分(株) 安田氏

三井物産(株) 能沢氏

(株)古屋商店 小穴氏

北田専務理事 中沢

※ 懇談会の概要

この懇談会は日本農産缶工組からの呼び掛けにより新物アスパラ缶詰に関して

生販両者の意見交換を行なったもの。

〔農産缶工組側の見解〕

1. 45年産アスパラ缶詰生産数量(実函)

| | |
|------------|-----------|
| 250g/4 | 384,447 函 |
| 4/2 | 197,888 函 |
| 角1/1 | 39,720 函 |
| 7/4 | 13,451 函 |
| その他 | 19,483 函 |
| <hr/> | |
| 小計 (ストークス) | 654,989 函 |

(カ ッ ト)

| | |
|-------|-----------|
| 2/2 | 84,730 函 |
| 4/2 | 71,334 函 |
| その他 | 243 函 |
| <hr/> | |
| 小計 | 106,307 函 |
| <hr/> | |
| 合計 | 761,296 函 |

2. 需給のバランスについて

日本農産缶工組側の見解では新物生産期におけるストークスのみの需給バランスの推定は、前年持越量(44年産)10万函、45年の生産65万5千函、輸出が1万函、輸入は(1月~12月の通関統計 ジュース缶/4換算)20万6千函、従つて45年産アスパラ缶詰の供給数量は95万1千函である。46年新物生産期における在庫量を5万函と見て約90万函が消化されたとの推定である。

3. 新物原料価格について

北海道山麓地区の原料価格が1級キロ220円、2級190円に決定した。

これは原料価格安定対策のためとられたもので仲買人の買いあさりを防止して、農協の一元化を図ろうというものである。

昨年1部のメーカー（全体の約20%程度）が約220円で購入したが、これを一応基準としてこの価格であれば農協もやっつけていけ。仲買人も買いきれないということである。一応200円の線で交渉したが、メーカー側の足並みが揃わず、結果的に農協側に押し切られた格好となったが、この価格は一応暫定価格という形で決定しており、これ以下ということは考えられず、現時点ではプレミアがいくらか判らない状況である。原料価格は今年の180～185円に比べ40～45円高くなり1函当りにすると600円の値上りとなり、ジュース缶で1缶12円高、さらに人件費の高騰等で実質的には15円高となり、4号缶では約倍近い値上りとなる。

☆ ☆ ☆

以上のように農産缶工組側からの説明があり、メーカー側の要望として次のような意向が述べられた。

- ① ホワイトの製品価格を原料値上げの分だけ加味して一部を値上げしてもらいたい。
- ② グリーンは今年の製品価格で据置く。

☆ ☆ ☆

これに対して全缶協は、今年のホワイトの小売価格ですでに限界点にきている。グリーンは多量の在庫を抱えており、今年の10円格差では無理で最底で20円の格差が必要である。

みかん、旬にしても今年の原料価格より安く、高くなつたものは一つもない。

スイートコーン、アスパラガス缶詰はこれから消費を伸ばそうとしている商品であり、これがあまりにも高値では消費にブレーキをかけることになる。カニ缶がよい例で、あまり高値であればそれに変えるものを考えだし、もうその商品は使われなくなってしまう。これが一番恐いことである。

最近の傾向としてみな当用買いで振り需要ということが期待出来なくなってきた。それだけに1次店の金利倉敷が増大し、人件費等の高騰により利益率の引上げを要求されている。従つてこれに見合う商品でなければ徐々に取扱はなくなつて来る。

その他原料規格の厳守等、全缶協で打合せした要望事項につき、申し入れを行なつた。

☆

☆

☆

[アスパラ缶詰のスズ溶出について]

最近保健所等で問題とされた事例があり、日缶協に問合せが寄せられている。この件に関しては内秘に個々のブランド所有者が事前に保健所に根回しをしておく必要がある。

また消費者から苦情等があつた場合に個々別々な回答を行なうよりも業界として統一したものを用意し、これをもとに返事をした方がよからうということから、農産缶工組では簡単な説明要領をまとめ、関係筋に手渡された。

アスパラ缶詰懇談会に関する打合

日 時 昭和46年4月22日 14.30～15.30時

| | | |
|-----|------------|---------|
| 場 所 | 北洋商事(株) | 7階会議室 |
| 内 容 | アスパラ缶詰について | |
| 出 席 | (株)矢口屋商会 | 萩原 弥重氏 |
| | (株)逸見山陽堂 | 橋田 春男氏 |
| | 国 分(株) | 安田 銀次郎氏 |
| | 北洋商事(株) | 三戸 正義氏 |
| | 三井物産(株) | 能沢 正司氏 |
| | (株)古屋商店 | 小穴 重忠氏 |
| | 全 缶 協 | 北田 久雄氏 |
| | | 中沢 和雄 |

※ 打合の概要

この打合は同日16:00時から開催される日本農産缶工組アスパラ部会と全缶協在京蔬菜部会員メンバーによるアスパラ缶詰懇談会に先立つ全缶協としての統一見解をまとめるべく協議を行なったもので、次のような見解をもつて臨むことになった。

1. 在庫数量について

どこの時点をとるかによつてかなり数量が違ってくるが、末端までの在庫数量を推定すると国産物15万函。その内訳は250g缶12万函、4号缶8万函でほとんどがグリーンである。

台湾物はほとんど250g缶で10万函と推定される。またカットも残っており2万函位の在庫がある。

2. 新物の製品価格について

ホワイトは一応の消化を示したが、末端小売価格はこれが限度に来ている。ことし値上りすれば消費の減退は必至で、消費者は他の代替商品に切替えアスパラ 缶詰を使用しなくなる。従つてホワイトは昨年の価格と同値でこれ以上高値では危険である。一方グリーンは荷動き、在庫状況から見てことしは昨年より20円安の線でなければ消化は困難であろうとされた。

3. 原料価格について

北海道山麓地区の原料価格の取り決めでは、1級220円、2級190円で決つたとの話であるが、全缶協としては原料価格がいかに値上りしてもこれ以上小売価格を上げることは全く危険である、と判断する。

日本のアスパラ 原料価格は国際価格に比べあまりにも行過ぎておりこうしたもののはなんとか是正していかないと将来外国の物に喰われることになり十分警戒を要する。また台湾物は日本向けとして安値輸出出来る原料価格であり、品質面でももつとよいものを造れる能力を持っている。全缶協としてはメーカー側に原料購入方法の改善を強く呼び掛ける必要があり実情にあつた原料の買付けを励行するよう要望することになった。

新物筍缶詰に関する日缶協よりの文書

日缶協筍缶詰委員会 志村委員長より全缶協蔬菜部会長宛に4月9日付および4月13日付で

1. JAS に関し問屋も受検品を扱うよう協力の件

1. 輸入缶詰について内地品が圧迫受けないよう要望の件

の2点に関し、文書が寄せられたが、全缶協蔬菜部会としてもこれに賛成であり、全缶協の各部会員ならびに筍缶詰取扱い店に同文書(写)を送付、協力方

の要請を行なった。

日缶協よりの文書は下記の通りである。

全国缶詰問屋協会

蔬菜部会長 大橋 庄三郎 殿

社団法人 日本缶詰協会

缶詰委員会

委員長 志村 尚穂

拝啓 ますますご隆昌のことおよろこび申し上げます。

さて、いよいよ缶詰製造シーズンに入り各産地とも本月10日頃より開始のよし承っております。

については、去月12日開催の缶詰全国大会の際の討議ならびに決議にもありましたように、品質の向上のためにも別紙のとおり各製造業者に對しJAS受検を強く要望。過去のような言訳がましいことなきよう申送りおきました。

については、各扱業者の方々も是非JAS受検したものを扱うよう。又JAS受検品についての何等かのメリットを製造業者に与えるよう、格段のご高配方お願い申し上げます。

なお過去のようにJAS受検数が全生産数に比し10%前後の成績では今後のJAS規格手直し申入れにも支障がありますので、本年シーズン中に貴方製造業者、検査協会、地方府県或いは農政局担当官、輸出検査所担当官等と実地にわたり検討会を催すよう考慮致しておりますので、いずれ通知申し上げますときは、よろしくご協力方願います。

敬 具

全国缶詰問屋協会

蔬菜部会長 大橋 庄三郎 殿

社団法人 日本缶詰協会
缶詰委員会
委員長 志村 尚穂

缶詰輸入品について

拝啓 陽春の候ますますご清栄のことお慶び申し上げます。

さて、先般京都市において缶詰全国大会を開催いたしました。大会決議にもありますように、缶詰の輸入品の取扱いにつきましても、国内の需給状況を考慮いただき、市場圧迫なきようご留意願います。

特に本年度は、さきの大会でも論議されますように国内原料も豊作を予想され、かつ、各パツカーとも品質向上、適正価格取引を強く打ちだしておりますので、国産品を萎縮させるようなことのないよう重ねてお願い申し上げます。

敬 具

業 発 第 3 号

昭和46年4月9日

缶詰製造業者各位

社団法人 日本缶詰協会
缶詰委員会
委員長 志村 尚穂

拝啓 陽春の候、ますますご清栄のことお慶び申し上げます。

本年もたけのこ缶詰のシーズンを迎え、ご繁忙のことと拝察いたします。

さて、先般昭和46年缶詰全国大会を京都市にて開催いたしました。その際本年度の努力目標として、決議文にもありますように、①JAS受検の積極化、②原料対策、価格の安定化、③製品価格の安定適正化、④輸入問題、⑤缶の生産振興対策、⑥竹林造成への努力、⑦大型缶の規格統一について、それぞれ実行手段を講ぜねばなりません。

つきましては、本年度の缶詰の製造にあたりましては、それぞれの企業において、これらの事項を尊重し、前向きに対処されますようお願いいたします。

特に、JAS受検については、いかなながら45年に受検数がわずかに30万本と全体の10%に止まっています。

また、青果市場や問屋からは、ぜひJAS受検品をという声も強いので、全数少なくともホールものは全部受検されますよう特段のご努力願います。

一方、問屋に対しては優先的にJAS品を指定し、受検品については何等かのメリットをつけるよう申入れるよう致しております。

敬 具

農産缶工組、桜桃かん詰について要望

農産缶工組ではチェリー一部会を開催し、新物チェリー缶詰に関して協議を行ない、昨年同様の規格で製造することを申合せ、4月22日付全缶協規格部会長宛次の文書が寄せられた。全缶協では果実、規格部会員に同(写)を送付し主旨徹底を図った。

全国缶詰問屋協会

規格部会長 橘 田 春 男 殿

日本農産缶詰工業組合

チェリー部会長 今 野 善 之

本年度産桜桃かん詰に関する件

拝啓 愈々ご清祥の程お慶び申し上げます。

陳者

本年度産チェリーかん詰の製造に関し検討いたしました結果、下記のとおりといたすことに決定いたしましたから、ご高含賜わり度お願い申し上げます。

敬 具

記

1. 食用赤色色素は赤色3号を使用し、100番台は使用しないこと。
2. 糖度の標示については、すべて昨年と同様とすること。

以 上

みかん缶詰内販対策懇談会

日 時 昭和46年4月15日 14.30～16.30時

場 所 八 重 州 竜 名 館

中央区八重州2の1

内 容 みかん缶詰内販対策に関する件

出 席 (蜜 柑 缶 工 組)

後藤理事長、伊豆川副理事長、楢崎内販対策委員長、稲葉副
委員長、甘日出副委員長、村上専務理事、伊原氏、花沢氏

[全 缶 協]

浅井会長

(株)見山陽堂 森 木 課 長

北洋商事(株) 広 田 部 長

野崎産業(株) 新 井 次 長

国 分 (株) 安 田 課 長

明治商事(株) 安 松 課 長

トーマン食品(株) 岩 佐 部 長

三井物産(株) 能 沢 課 長

住商フーズ(株) 八 尋 部 長

松下鈴木(株) 須 貝 氏

北田専務理事、中 沢

※ 懇 談 会 の 概 要

新物みかん缶詰の生産が終了となり、いよいよ缶詰の実需期を迎えるにあたり蜜柑缶工組では内販対策について生販両者間で意見交換を行ないたいとして、このほど同組合からの呼び掛けにより全缶協側からは会長はじめ在京果実部会
員メンバーが出席懇談した。

1. 46年産内販みかん缶詰の生産、流通事情について

蜜柑缶工組の見方によれば、サイズ物のJAS受検数量およびブロークン鑑定数量より見て520～530万函とされる。みかん缶詰の大方のブランドはJASの受検もブロークンの鑑定も受けており生産数量に大きな誤差はないと見ており、これは次に示す数量を根拠として推定されたものである。

内販みかん缶詰の生産が520～530万函で終了したことは期せずして自然のうちに生産調整されたとも言えるがこの程度の生産に止まれば適正生産数量とも考えられ、次年度の出来秋までには完全消化期待もかけられるとし、こゝで低迷を續けて来ているみかん缶詰の販売促進に力を注ぐ好機であるとの見解によりまず小売店の販売意欲を盛り上げることがポイントとされ、ここで生販両者が全力を傾注してみかん缶詰のムードアツプを図ることを話し、その一法として蜜柑缶工組、缶詰協にて次のような声明文を業界各紙に発表し販促体制を敷くことになった。

内販向みかん缶詰について

日本蜜柑缶詰工業組合 内販対策委員会

委員長 樋 崎 次 男

全国缶詰問屋協会 果実部会

部会長 野 田 喜 三 郎

日本蜜柑缶詰工業組合と全国缶詰問屋協会では4月15日、新物みかん缶詰の製造が完了したので、生産数量、販売見通しにつき情報交換を行なったところ(1)製造数量は適正生産であることが確認されたこと、(2)荷動きもようやく台頭しはじめていること、(3)パツカー、問屋は相協力してムードアツプを図るべく積極的活動を開始するなどの好材料が揃つたとの結論を得、次の通り近年にない明るい情報提供を全国の関係ルートに流すことになった。

1. ことしは適正な生産数量である

内販向けみかん缶詰の4月10日現在におけるJAS受検数量は360万函（前年は472万函）にとどまっております。ブロークン157万函程度を含めても520万函～530万函の生産である。この生産数量は過去の年間消化能力から見て全く適正な供給数量と判断される。

2. 荷動きもいよいよ台頭

製造が完全に終了するまでめずらしくみかん缶詰に対する引合いの呼び声がかまらなかつたが、4月に入りようやく荷動きが台頭し、明るい見通しとなつて来た。

これはいままで過剰生産を警戒していた向きが、適正生産の確証をつかみ、いまの相場がソコ値であり、安値の出るような余地はなくなつたとして好感しているためである。

3. 品質はさらに向上

内地販売のみかん缶詰は全量JASの検査を受けている。規格外のブロークンにあつても日本缶詰検査協会において鑑定がなされており、品質の向上についてはいままで以上に強化されている。

4. ムードアツプも積極的

本年は特にみかん缶詰の販売を促進するため主婦の友などの雑誌を通じ、缶詰みかんの料理法や缶詰の知識をPRし、また個々のブランド所有者も「缶詰みかんを使ったおやつとスナック」と題するレシピを広く消費者に配布し、需要喚起のムードアツプに専念している。

5. 完全消化の見通しは強い

完全消化を見たという年はあまり例がないが、ことしほど需要と供給のバランスがとれている年はなく、実需期入りと相俟つて出来秋までに完全消化される見通しが強まつてきている。

以 上

内販向けみかん缶詰JAS受検状況

(昭和46年4月10日現在)

単位：函数

| 検査所別 | 1/06 | 2/24 | 3/24 | 4/24 | 5/48 | 5/24 | 計 | 換算計 | 前年同期 (45.4.10) | フロン 鑑定数量 (換算) |
|------------------|---------|---------|--------|-----------|-----------|--------|-----------|-----------|-------------------|---------------------|
| 清水 | 162,040 | 198,652 | 10,132 | 451,800 | 449,655 | 1,796 | 1,274,075 | 1,262,203 | 1,692,482 | 194,821 |
| 神戸 | 29,935 | 132,360 | 4,749 | 489,270 | 534,845 | 39,324 | 1,230,483 | 1,133,377 | 1,472,351 | 249,751 |
| 門司 (含長崎) | 75,467 | 88,334 | — | 389,377 | 644,816 | 33,641 | 1,231,635 | 1,160,350 | 1,356,343 | 411,893 |
| 仙台 | 7,028 | 3,575 | — | 13,463 | 27,404 | — | 51,470 | 50,879 | 140,102 | 13,997 |
| 東京 | — | — | — | 1,637 | 1,414 | — | 3,051 | 2,609 | 42,915 | — |
| 計 | 274,470 | 422,921 | 14,881 | 1,345,547 | 1,658,134 | 74,761 | 3,790,714 | | | |
| 換算計 | | | | | | | | 3,609,418 | 4,704,193 | 869,962 |
| 前回調 (46.3.31) | | | | | | | | 3,555,375 | | 862,980 |

内販向けみかん缶詰時期別受検状況

(昭和46年4月10日現在)

単位：函数

| | 昭和45年度 | | | 計 | 昭和44年度 J A S 受検 |
|-------------------|-----------------|--------------|--|-----------------|--------------------|
| | J A S 受検 | ブロークン鑑定 | | | |
| 1 2 月 末 日 迄 | 6 2 9, 8 8 8 | 1 4 7, 0 0 8 | | 7 7 6, 8 9 6 | 1, 4 4 9, 9 5 6 |
| 1 月 中 | 4 3 4, 2 3 3 | 2 8 2, 2 0 4 | | 7 1 6, 4 3 7 | 1, 1 5 4, 7 6 8 |
| 2 月 中 | 1, 4 9 0, 6 9 3 | 2 9 5, 6 9 5 | | 1, 7 8 6, 8 8 8 | 1, 2 0 9, 1 6 3 |
| 3 月 中 | 1, 0 0 0, 5 6 1 | 1 3 8, 0 7 3 | | 1, 1 8 8, 6 3 4 | 8 2 4, 9 7 5 |
| 計 | 3, 5 5 5, 3 7 5 | 8 6 2, 9 8 0 | | 4, 4 1 8, 3 5 5 | 4, 6 3 8, 3 6 2 |
| 4 月 1 日 ~ 1 0 日 迄 | 5 4, 0 4 3 | 6, 9 8 2 | | 6 1, 0 2 5 | 6 5, 3 3 1 |
| 果 計 | 3, 6 0 9, 4 1 8 | 8 6 9, 9 6 2 | | 4, 4 7 9, 3 8 0 | 4, 7 0 4, 1 9 3 |

輸出向けみかん缶詰の地区別出荷状況

(昭和46年4月12日現在)

| | 1/06 | 2/24 | 4/24 | 5/48 | 5/24 | 7/24 | 7/24 | 換算計 | 44年度 (昨年度) | 48年度 | 41年度 (過去最高) |
|----|---------|---------|---------|-----------|-----------|-------|-------|-----------|---------------|-----------|----------------|
| 横浜 | 13,699 | 3,261 | | 76,302 | 75,333 | | | 135,527 | 46,336 | 126,584 | 222,298 |
| 清水 | 207,488 | 107,346 | 371,450 | 987,275 | 1,986,941 | 3,000 | | 2,657,097 | 2371,221 | 2,315,983 | 2,593,929 |
| 神戸 | 72,975 | 45,666 | | 620,794 | 1,141,256 | | 4,375 | 1,348,553 | 950,219 | 1,229,601 | 1,219,319 |
| 関門 | 25,031 | 21,156 | | 424,944 | 709,230 | | | 839,620 | 548,954 | 622,800 | 552,680 |
| 長崎 | 5,770 | 4,540 | | 454,773 | | | | 468,160 | 341,185 | 388,927 | 396,156 |
| 合計 | 824,963 | 181,969 | 371,450 | 2,564,088 | 3,912,760 | 3000 | 4375 | 5,448,957 | 4,257,915 | 4,683,895 | 4,984,582 |

(註) 全販連宛出荷分を含む。

単位：箱数

☆

☆

☆

蜜柑缶工組ではテクロ問題で実施出来なかつたブロークンの統一意匠について（前年決定した方針通り。）次年度から実施したいとの意向であり、それにはいまのうちから具体的対策を講じておかなければ間に合わず、ブロークンの統一意匠の実施につき全缶協の協力を得たいとの申入れがあつた。

また蜜柑缶工組では年代別によるみかん缶詰の嗜好調査（甘味、酸味等）を実施しており、この結果が近くまとめられることになつている。この調査を参考に消費者の嗜好に合った糖度に改めていこうとの考えもある。

なお国内みかん缶詰のPRとしては主婦の友5月号に「知っておきたいカンヅメの知識」の見開き記事を掲載、同付録8頁にわたり「カンヅメみかんを使ったおやつとスナック」が紹介されている。同誌は60万部発刊、家庭の主婦に愛読されており、大きなPR効果が期待されている。またこの8頁を利用してブランド所有の各社がレシピを作成、共同宣伝の料理講習会等の催会場に配布しブランド宣伝を兼ねてみかん缶詰のPRを推進する。

理 事 会

日 時 昭和46年4月26日 13.30～15.30時

場 所 日本橋精養軒（三越本店前）

中央区日本橋室町1～8 福島ビル9階

TEL 241-2741番

〔定時總會提出議案〕

- 議案
- 1) 昭和45年度事業報告に関する件
 - 2) 昭和45年度決算報告に関する件
 - ㊶ 収支決算書
 - ㊷ 財産目録
 - ㊸ 貸借対照表
 - 3) 昭和46年度事業計画(案)承認の件
 - 4) 昭和46年度会費賦課徴収方法の件
 - 5) 昭和46年度収支予算(案)承認の件
 - 6) 退会会員に関する件
 - 7) 定時總會期日、場所決定の件
 - 8) その他

※ 理事会審議の概要

この理事会は、3月31日をもって昭和45事業年度が終了となり、4月1日から昭和46年度に入つたが、昭和45年度定時總會に諮る提出議案につき審議が行なわれ、全議案とも原案のまま承認された。

1. 昭和46年度事業計画

全缶協は旧に倍する団結力をもつて、次に掲げる8大テーマを根幹として事業遂行に邁進していくことになつた。

- 1) 消費者対策と缶詰イメージアップの促進
- 2) 取引の合理化と適正利潤確保のための諸施策の推進
- 3) 関連団体、諸官庁との連絡協調

2. 定時総会期日、場所の決定

全缶協45年度定時総会は、下記により開催されることになった。

日 時 昭和46年5月20日 14.00～16.00時

場 所 鉄道会館(大丸デパート)ルビーホール11階

TEL (211) 5611～5615番

果実飲料公正取引協議会が発足

果実飲料の公正競争規約が認定されこれにより4月15日「果実飲料公正取引協議会」が設立された。

本協議会は団体加入が原則で、果汁の缶詰については、缶詰業界を代表して日缶協が加入しており、全缶協は日缶協を窓口としているので、特に協議会には加入していないが、重要事項についてはその都度日缶協から連絡を受け全缶協の会員に徹底することになっている。

本協議会の構成は、

日本果汁協会、全国清涼飲料工業会、日本缶詰協会、日本果汁機協連、日本ココアコーラ ボトラーズ協会、ペプシコーラ ボトラーズ協会、日本製缶協会、日本王冠コルク工業連合会の8団体である。

4月15日の創立総会では、協議会の組織運営規則が承認され、予算と役員が決定した。

事業予算は 968 千円。会費 1 団体 12 万円。

役員は次の通り。

▽ 会長 三堀参郎氏 ▽ 常任理事 渡辺熊夫氏(以上果汁協会)

▽ 理事 小池友蔵氏、小川忠久氏(以上全清飲)、吉村一郎氏、隅野勇氏
(以上日缶協)、塚口勇作氏、後藤松太郎氏、桐野忠兵衛氏(以上果汁連)。

河村尚平氏、久住裕氏、沢田普一氏(以上コココーラ協会)、鷺見辰雄氏、
青山正一氏、横沢謙二郎氏(以上ペプシコーラ協会)、中沢沖氏、成田豊氏、

山崎力氏(以上製缶協会)、土田建二郎氏、新隈清氏、喜多義雄氏(以上王冠
コルク連) ▽ 監事 堀部義己氏(全清飲)、平野孝三郎氏(日缶協)

なお施行細則は近く決定の運びとなっている。

共 同 宣 伝

昭和45年度の共同宣伝は缶詰料理講習会を中心に展開されたが、このほど県別実施回数、参加人員等の集計がまとめられた。

昭和4.5.年度 共同宣伝講習会集計

(4 5 年 4 月 ~ 4 6 年 3 月)

| 主 備 団体 県別 | 日 本 栄養士 | 全 国 全 農 協 | 関 東 企 業 | 主 婦 連 | 消 費 団 体 | 栄 養 改 善 | 食 品 衛 生 | 指 導 グ ル | 各 大 学 講 | 朝 日 朝 女 性 | 調 理 士 | 計 回 数 | 参 加 人 員 |
|-----------------|------------|--------------|------------|-------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|-------|----------|------------|
| 北海道 | 67 | 8380 | | | | 4 | 101 | | | | | 71 | 3481 |
| 青 森 | 6 | 270 | | | | | | | | | | 6 | 270 |
| 岩 手 | 5 | 250 | | | | 1 | 20 | | 12 | 980 | | 18 | 1230 |
| 宮 城 | 9 | 450 | 1 | 50 | | | | | | | | 10 | 500 |
| 秋 田 | 5 | 250 | | | | 1 | 20 | | | | | 6 | 270 |
| 山 形 | | | 1 | 40 | | 1 | 21 | | | | | 2 | 61 |
| 福 島 | 8 | 400 | 4 | 160 | | 2 | 825 | | | | | 14 | 885 |
| 茨 城 | 7 | 450 | | | | 3 | 58 | | | 3 | 276 | 14 | 884 |
| 栃 木 | 6 | 300 | | | 2 | 1 | 12 | | | 2 | 318 | 11 | 692 |
| 群 馬 | 23 | 1250 | | | | 3 | 84 | | 7 | 225 | | 96 | 1825 |
| 埼 玉 | 23 | 1200 | | | | 2 | 142 | | 6 | 288 | | 35 | 2121 |
| 千 葉 | 6 | 800 | | | 1 | | | | | | | 10 | 785 |
| 東 京 | 43 | 2126 | 16 | 740 | 7 | 31 | 712 | 13 | 540 | 2 | 63 | 21 | 1543 |
| 神 奈 川 | 32 | 1700 | 3 | 95 | 7 | 290 | 762 | | 4 | 162 | | 5 | 657 |
| 新 潟 | | | | | 1 | 80 | 28 | | | 1 | 100 | | 240 |
| 富 山 | | | | | | | | | | | | | |
| 石 川 | 9 | 450 | 1 | 50 | | | | | | | | | 500 |
| 福 井 | 6 | 270 | | | | 6 | 144 | | | | | | 414 |
| 山 梨 | 4 | 200 | 1 | 26 | | | | | | 2 | 179 | | 405 |
| 長 野 | 16 | 1050 | | | | 3 | 51 | | 6 | 510 | | 1 | 70 |
| 岐 卓 | 8 | 400 | 1 | 40 | | 1 | 15 | | | | | | 1681 |
| | | | | | | | | | | | | 10 | 455 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-------|----|------|----|-----|----|------|---|-----|----|------|----|-----|---|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|-------|
| 静岡 | 9 | 450 | 1 | 75 | | | | | | | | | | | | 2 | 342 | | 12 | 867 | | | | |
| 愛知 | 21 | 1050 | | | | | | | | | | | | | | | | | 21 | 1050 | | | | |
| 三重 | 5 | 250 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 100 | 6 | 850 | | | |
| 滋賀 | 11 | 518 | 1 | 45 | | | | | | | | | | | | | | | | 18 | 578 | | | |
| 京都 | 5 | 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | 890 | | | |
| 大阪 | 10 | 500 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13 | 684 | | | |
| 兵庫 | 13 | 650 | 1 | 35 | | | | | | | | | | | | | | | | 17 | 857 | | | |
| 奈良 | 10 | 500 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | 500 | | | |
| 和歌山 | 10 | 500 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | 500 | | | |
| 鳥取 | 5 | 250 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | 250 | | | |
| 島根 | 10 | 500 | 1 | 40 | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | 540 | | | |
| 岡山 | 10 | 500 | 1 | 50 | | | | | | | | | | | | | | | | 14 | 625 | | | |
| 広島 | 8 | 400 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | 400 | | | |
| 山口 | 5 | 250 | 1 | 22 | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | 272 | | | |
| 徳島 | 11 | 524 | 1 | 28 | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | 552 | | | |
| 香川 | 6 | 300 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | 300 | | | |
| 愛媛 | 15 | 750 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 15 | 750 | | | |
| 高知 | 10 | 510 | 1 | 29 | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | 529 | | | |
| 福岡 | 9 | 450 | 1 | 50 | | | | | | | | | | | | | | | | 10 | 500 | | | |
| 佐賀 | 3 | 150 | 1 | 48 | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 198 | | | |
| 長崎 | 16 | 800 | 1 | 45 | | | | | | | | | | | | | | | | 17 | 845 | | | |
| 熊本 | 11 | 522 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 | 522 | | | |
| 大分 | 7 | 350 | 1 | 25 | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | 372 | | | |
| 宮崎 | 4 | 200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 200 | | | |
| 鹿児島 | 6 | 300 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | 300 | | | |
| 合計 | 513 | 26110 | 40 | 1693 | 16 | 642 | 55 | 2740 | 9 | 660 | 98 | 2743 | 13 | 540 | 3 | 163 | 56 | 3668 | 34 | 4608 | 6 | 600 | 843 | 44162 |

缶詰フェア

昭和46年度缶詰共同宣伝の一環として「缶詰フェア」が下記の内容にて計画されている。

〔缶詰フェア計画書〕

1. 開催趣旨

缶詰100年を機会に消費者やマスコミなどに缶詰の正しい知識を与え、理解を深めて缶詰の信用を強めるため、業界が一丸となつて消費主要都市で缶詰試食と説明を中心とした缶詰フェアを開催する。

2. 地 域

東京、名古屋、大阪、福岡、仙台、札幌

3. 時 期

6～10月中、東京・大阪は2日間、その他は各1日

4. 主 催 者

缶詰協会、全缶協、製缶協会および開催地の製造、販売団体の共同主催とする。

5. 予 算

1,060万円（うち310万円は参加者負担）

6. 準 備

中央および開催地毎に委員会を組織し、地区委員会が中心になつて会場選定、土地柄に合った実施内容の検討および施行に当る。

7. 内 容

- ① 中央および開催地区の製造、販売業者約30社を目標として参加を求め、缶びん詰の展示試食場を設け、出品にPRしてもらう。

対象・地域消費者

② 地区委員会の催場

例えば、報道陣、消費者リーダーに対して、国産、外国産缶びん詰の開缶、試食ならびに資料配布と説明会を開催する。呼びかけは地区委員会が選定実施

③ その他

1. 抽せん会：参加者に抽せんで缶びん詰の景品を与える。

（例えば、特等・缶詰1年分、1等・同1カ月分、2等・同1週間分、3等・同1日分など）報道陣および特別招待者に、別に缶詰々合せや足代等を考慮

ロ. 缶詰供出：全製造・販売業者から1%以上10%までの缶びん詰の寄贈を仰ぎ、1,200名の調達を行なう。

展示試食・景品用

ハ. パネル展示：会場に缶詰の説明用パネルおよびポスター提出

ニ. 資料配布：一般消費者には、缶詰料理テキスト等を配布。報道陣等には缶詰資料その他パンフレットおよびレシピー等を手交

ホ. 参加料：出品者から1口（3尺×6尺の小間）3万円の参加料を徴収する。

ベターリビングシヨーナゴヤ'71に参加

中日新聞、中部消費者協会主催で「ベターリビングシヨーナゴヤ'71」が来る5月15日から5月30日までの16日間愛知県産業貿易館において開催されるが、この催しに缶詰フェアとして参加可能な状況かどうか現地交渉して

見ることになり、4月24日全缶協北田専務理事が出向き、中部缶詰製造協議会々長川口仲三郎氏、中部缶詰問屋連盟会長森下裕氏とカゴメ(株)3階応接室で落合い打合せを行なったあと、中日新聞社を訪れ、打合せの結果、2小間を振向けてもよいということであり、4月27日共同宣伝事務局3者会を開きこれに協力することが話合われ、作業の進行を図ることになった。なお2小間分の催し場のパネル、調理台、その他の飾付けのスケッチを中日新聞事業部に送付するとともに地元団体に次の文書を送り、中央の考え方を伝えた。

中部缶詰製造協会

会長 川 口 仲三郎 殿

中部食料品問屋連盟

会長 森 下 裕 殿

缶詰共同宣伝事務局

拝啓 ますますご清祥のこととおよろこび申しあげます。

ベターリビングショー参加の件

さきに、当方より申しおくりました本年度缶詰共同宣伝の一環として、主要都市での缶詰フェア開催について、御地区では、5月15日より開催のベターリビングショーナゴヤに参加することで、フェアに代えたき旨承りました。

本件につき、去る24日貴地参上の全缶協北田専務より御打合せ事項にもとづき協議致しましたところ、下記のとおり当方意向申し上げます故、ご了承の上おとりすめ願えれば幸甚であります。

記

1. ベターリビングショー参加は、1階の2コマを申しこむ。
2. 2コマの内1コマは各種缶詰の展示(御地パソコン、問屋業者より提供分)とカセットフィルム映写。1コマは料理講習・試食(飾付要領別紙参照)
3. 飾付のタイトルは展示側に「缶詰うまれて百年」とし、その下に缶詰の歴史(別紙まん画)をパネルにかく。
料理講習側に「楽しい缶詰料理」とその下に「かんづめ」ポスター(学研書籍作成のもの)数枚をはる。
4. 缶詰についての簡単なアンケートをとり、提出者にクジ(ガラボン式)をひかせ、全部に貯金缶。1等・2等には貯金缶と缶詰(この缶詰は地元より提供)、貯金缶は200函(9,600缶)お送りする。
5. 料理講師、助手は地元でえらぶ。講習は1日3回以上を希望する。缶詰材料にはまぐろ油漬、スイートコーン、さば、みかんを必ず使い、他は随意料理テキスト5千部お送りするが、地元よりも各社のリーフレットを並べる。
6. 料理講習以外の時間には、カセットフィルム映写のほか、相談員によって適宜缶詰を開缶、説明、試食させる。
「缶詰のことなら何でも承ります」とのポスターをはり、説明員が応待する。
7. 中日プレゼントコーナーに缶詰提供。1等1年分の件は貴案どおり。但し、2等・3等は如何、提供する缶詰は貴方より無償でだす。
8. 新しい缶詰料理教室は是非申込んでいただき度い。
講師、助手は日本缶詰協会納富課長ほか。午後より2回行う。日時なるべく早急に知らしてほしい。
9. 映画16mmは日魯の「食を拓く」約40分、日水の「海を拓く」約1

間がある。

10. 予 算

2 コマ分会場費 20万、飾付外 20万、料理講師助手 16万(車代をふくむ、料理用器具、講師負担)講師は缶詰をよく理解している男子がよい。

材料及び光熱代 5万、アンケート用紙、アンケート集計費 10万、雑費 5万、計 76万円。

支出領収書は必ずとること。宛先は日本製缶協会。

11. そ の 他

缶詰フェアは、地元参加者より 8万円出費することになっている。かつ、くじなどで提供の缶詰も広くバツカー問屋さんから出してもらうことになっているが、このたびは缶詰のみ提供願うことになる。

なお、さきにフェアを行う場合は 100万円の予算としたが、このたびの出費予算は 76万円故、これで打ちきりとなる。

以上のとおりです。

いずれ、貴方ご都合を承つた上で具体的な打合せのため、担当お伺い仕りたく存じます。

敬 具

缶詰取引協議会常任理事打合せ

日缶協岡野専務理事、製缶協山崎力専務理事、全缶協北田専務理事の取引協議会 3 常任理事打合会を昭和 46 年 4 月 23 日 14.00～16.30 時日缶協で行なつた。これは 46 年 5 月 19 日丸の内ホテルで開催予定の全国食品缶詰公正

取引協議会 理事会および定時総会に諮る予算、事業計画等の議案について検討されたもの。

関係団体報知

〔会社合併〕

※ 新日本製鉄㈱では4月1日をもって富士三機鋼管㈱を合併しその財産および権利義務一切を継承した。なお同社ではこの合併を機に鋼管部門をさらに拡充し経営の一層の総合化をはかることになった。

会員消息

〔役員異動〕

※ ㈱湘南北洋（取締役社長和気正夫氏）では、4月1日開催の同社臨時株主総会ならびに取締役会において常務取締役竹中理七氏は北洋商事㈱販売第3部次長に就任のため退任し、後任の常務取締役に北洋商事㈱の商品部長代理岡崎寿氏が就任した。

〔社名、住所変更〕

※ ㈱湊屋商店（名古屋市熱田区 取締役社長佐藤君治氏）では4月26日から下記の通り社名および住所が変更し、同時に電話番号の変更を行った。

新社名 ミナトヤ商事株式会社
電 話 (052)682-3741 (大代表)
新住所 名古屋市熱田区柳川町4丁目6番地

